

(報告書様式 C)

【フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県

愛知県

．学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

愛知県尾張旭市立三郷小学校										(フロンティアスクール名)	
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数		
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	27		
児童数	101	97	109	108	100	113	4	632			

．実践研究の概要

1．主題（テーマ）

よく学ぶ子の育成

- 個人追究と集団追究の場面を通して -

2．内容与方法

(1) 実施学年・教科（選択した理由を付すこと）

研究内容

1 年生～ 6 年生の全教科において、個人追究と集団追究の場面を通して「課題をつかむ 課題を追究する 課題追究をまとめる」という学習活動の指導方法の工夫、教材開発、評価に取り組む。平成 15 年度は「課題を追究する」ことに視点を当てて取り組み、本校オリジナルの「F 学習」を設定した。

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

今年度は、習熟の違いを生み出しやすく、学習の過程で、児童の理解の状況に個人差が大きく出やすい算数科を研究の中心においた。

- ・ 3 年生・算数における少人数指導
- ・ 4 年生・算数における少人数指導
- ・ 5 年生・算数における少人数指導
- ・ 6 年生・算数における少人数指導

(2) 年次計画

平成
14
年度

テーマ

追究意欲を高める「課題をつかむ」指導の工夫

仮説

「課題をつかむ」手だてを工夫して、児童自らが「課題をつかむ」ことができれば、学習意欲が高まり、積極的に課題を追究することができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 各学年の児童の実態に合わせ、的確に本時の「課題をつかむ」ことができるように手だてを工夫する。
- ・ 基礎となる力として「聞く力」を高める取り組みをする。
- ・ 個に応じた指導(少人数・TT指導)においても授業形態に応じた「課題をつかむ」活動を工夫し、より効果的な指導方法を研究する。
- ・ 「課題をつかむ」ことに視点を当てて学習環境を整備する。

平成
15
年度

テーマ

主体的に学習する力を育む「課題を追究する」指導の工夫

仮説

生活経験や具体的な活動、既習の知識・技能をもとにした指導方法の工夫や教材・教具の開発をすれば、児童が主体的に「課題を追究する」力を育むことができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 低学年・中学年・高学年に応じた「課題を追究する」児童の具体的な姿を明らかにし、その指導方法の工夫改善、教材・教具の開発に取り組む。
- ・ 「読む力・書く力・聞く力・話す力・計算する力」という基礎となる力を育てる指導を充実する。

平成
16
年度

テーマ

確かな学力を高める「課題をまとめる」指導の工夫

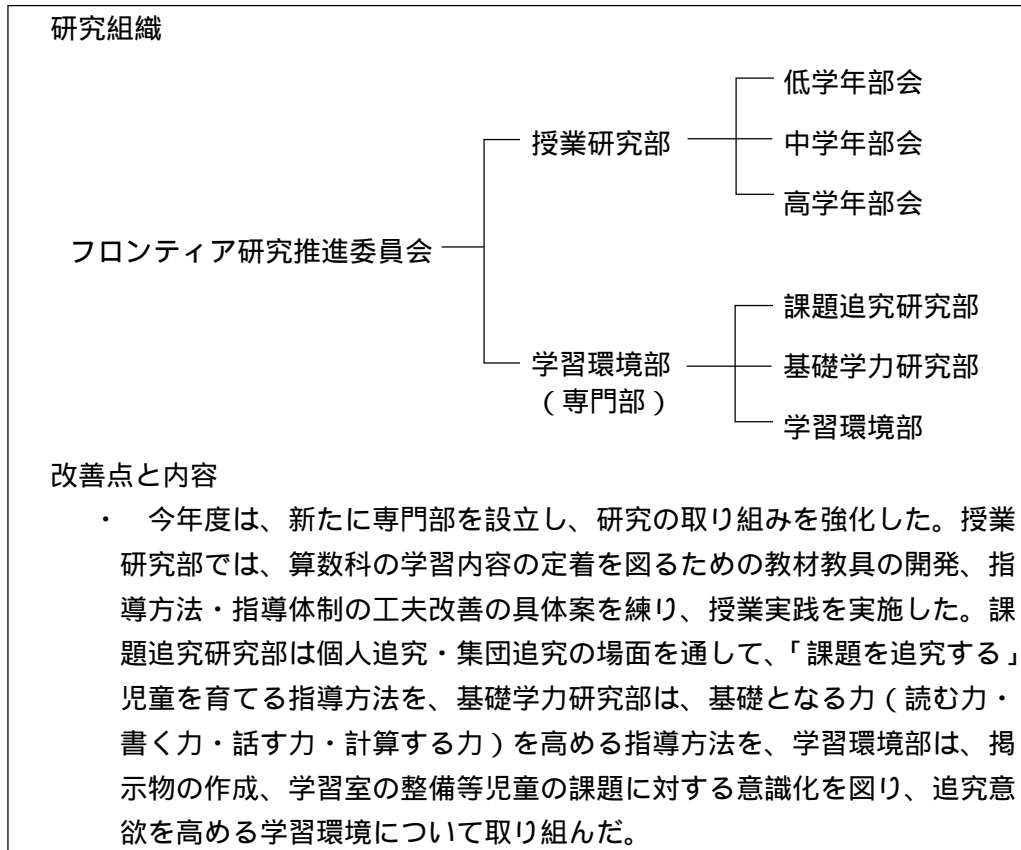
仮説

適切な評価をもとに、それを生かして「課題をまとめる」指導を工夫すれば、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、個に応じた確かな学力を身に付けさせることができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 低学年・中学年・高学年に応じた「課題をまとめる」児童の具体的な姿を明らかにし、評価方法や評価を生かした指導方法の工夫改善に取り組む。

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

成果

(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

「F学習」の設定

「F学習」のFはFind（発見）、Friend（友達）、Fun（楽しさ）、Frontier（先駆）等の意味である。学習活動を通して、様々な気づきや発見をし、友達と楽しく学び合うことを目指した授業である。

「F学習」の特徴

「赤・黄・青」の3色の反応器（カラーコーン）を活用する。

- ・児童自らが学習状況を教師に伝達できる。
- ・色を見て、教師が即時評価・即時支援を行う。

個人追究・集団追究の場面でコースを設定することで、児童の実態に合わせた、きめの細かい指導ができる。

児童アンケートの結果（3年～6年）

< 少人数指導授業に対する児童の意識 >

ア あなたは少人数授業が好きですか。

- ・ 好き・だいたい好き・・・平成14年度：69.9%
平成15年度：85.6%

* 昨年度と比較すると、少人数授業を好む児童が15.7%も増えた。

イ なぜ少人数授業が好きなのですか。

- 算数の学習がわかりやすいから・・・60%
- 学習に集中しやすいから・・・50%
- その他（先生や友達と関わりやすい・発言しやすい等）・・・20%

* 授業がわかりやすく、先生や友達とも関わりやすいことを多くの児童があげている。

ウ 算数の授業はどれくらい理解できていますか。

- よくわかる・だいたいわかる・・・1学期：87.4%
2学期：91.7%

* 1、2学期を比較して、よくわかる・だいたいわかるが4.3%増加した。その要因として、3色の反応器(カラーコーン)を使って授業を行っていることが、よい結果をもたらしていると考えられる。

エ 3色の反応器(カラーコーン)を使うことについて、どう思いますか。

- よい・だいたいよい・・・72%

エ 3色の反応器(カラーコーン)は、どのような点でよいと思いますか。

- 自分の様子を先生や友達にわかってもらえる・・・68.1%
- 練習問題でどの問題を解いているのかがわかりやすい・・・53.9%
- 赤コーンを出すと、先生がすぐに来てくれる・・・43.8%

オ あなたはこれからも3色の反応器(カラーコーン)を使って、学習したいですか。

- 使いたい・・・70%

* 3色の反応器(カラーコーン)に対する児童の一定の評価が得られた。特に自分の様子を先生にわかってもらえる。赤コーンを出すと先生がすぐに来てくれる等、即時評価・即時支援の体制がうまく機能していることが伺える。

<まとめ>

「F学習」により、今まで以上に児童一人一人を細かく見ることができるようになった。特に3色の反応器(カラーコーン)を活用することにより、児童が自分の学習状況を教師に伝えながら学習していけること、また、教師が反応器(カラーコーン)の色を見て即時評価・即時支援をして、児童の追究を支えていくことについては、今後も研究の中心として取り組んでいきたい。

昨年度からの取り組みで、授業の「めあて」が明確になっているため、追究の過程においても学習目標に沿って的確に学習が進められる。また、前時・本時・次時の学習内容のつながりが、はっきりととらえられるようになった。

今後の課題

- 「F学習」の定着と、学力向上に向けた取り組みを強化する。
- ・単元の学習内容に合わせて、少人数、TT指導等を適宜選択する。
- ・実際の学習指導では、F学習（即時評価・即時指導）を中心にして展開する。
- ・複線系の学習内容を前提に、個に応じた指導を展開する。
教師一人一人の指導力の更なる向上を図る。
- ・学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、個々の対応を充実すべく、力量の向上に向けて努力する。
- ・少人数指導では、学級を2つに分けて指導することから、学年間の話し合いをより緊密にする。
- ・先進校の実践に学び、成果を還元することで、指導技術の向上を目指す。
評価基準の一層の充実を目指し、指導との一体化を検証する。
- ・指導と評価の相互の関連付けを一層明確にし、個々への対応を的確にする。また、保護者への説明責任についても具体化を検討する。
- ・指導面、評価面にに関わり、新たなシステムの構築にむけて、方策を検討する。

・学力把握のための学校の取組について

- 学年末（2月）に学力検査を実施する。
- 平成15年度は、2月に「教研式標準学力検査CRT」を実施し、学力を把握する。
- 来年度以降も、学年末に同検査を実施し、学力の推移を調査する。

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、テーマ、対象、予定のものについては参加方法）
- ・HP作成等の工夫の実績及び今後の予定

ホームページの開設

研究内容・成果などを周知することを目的にホームページを開設する。
(平成15年2月1日開設)

ホームページアドレス <http://www.sangou-e.aichi-c.ed.jp/>

メールアドレス edq-mas@sangou-e.aichi-c.ed.jp

地区別学力向上フロンティア事業協議会で発表

- ・愛知県尾張教育事務所主催の学力向上フロンティア事業愛日地区協議会において、研究成果を発表する。(平成16年2月25日・瀬戸市文化センター・愛日地区教務主任対象)

公開授業・研究協議会で発表

- ・平成15年6月23日、尾張旭市教育委員会の現職研修と共催で実施。市内小中学校教員、市教委関係者が参加。(50名参加)
- ・平成15年12月1日、愛日地区教務主任対象に実施。(130名参加)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
13～18学級 19～24学級
25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭
体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無